

第49回豊橋まつり「とんとん踊りコンテスト」参加報告

～保育者養成における学生指導と地域行事への参加のあり方～

岡 本 雅 子
青 嶋 由美子

昨年度（平成14年）に引き続き、幼児教育・保育科の有志でチームを結成し、豊橋まつりのフィナーレを飾る「とんとん踊りコンテスト」に参加した。今回は二度目ということで、結成に至るまでのプロセスを含め、学生達が練習に対してどのように関わっていったのかを報告する。そして、学生の資質の向上を目指した、今後の保育者養成校としての学生指導のあり方を探りたいと思う。

1. とんとん踊りコンテスト概要

- ①日時：平成15年10月19日（日）
午後6時～8時半
（タイムスケジュールは93頁の資料（以下資料と略す）参照）
- ②会場：広小路通り
- ③曲目：『新・豊橋とんとん唄』
- ④内容：振り付け・衣装自由。踊り、衣装、ハッスルの3つのポイントで審査。（審査方法、賞の内容は資料参照）
- ⑤進行：一定の場所で止まって演技（1曲）。その後、横へ移動し（30秒）、その場で止まって踊る。配列は、参加グループ説明会で抽選。（配列は資料参照）
- ⑥参加：28チーム（当日1チーム欠場によ

り出場は27チーム）

説明会

- ①日時：平成15年8月29日（金）
午後7時～
- ②会場：豊橋市役所 85会議室
- ③内容：コンテストの実施方法、審査方法について（昨年度との変更点を中心に）

参加チーム説明会

- ①日時：平成15年9月26日（金）
午後7時～
- ②会場：豊橋市職員会館 5階
- ③内容：コンテストの実施方法、審査方法について、配列（審査の順番）の抽選

2. チーム結成のプロセス

今年度のメンバーは、昨年度優秀賞を受賞したメンバーのうち、今年は大賞（1位）を狙いたいという思いをもつ2年生7名が中心となって集まった。（昨年度の参加者は1年生希望者32名）

1年生へは授業後に説明をし、後日、希望者に昨年度のVTRを観せ、上位入賞を狙うための練習を行うことを確認した上で

希望者を募った。この時点で、1年生の希望者は67名おり、2年生の7名を加えると74名となり、参加人数規程の50名前後の上限を大幅に越えてしまった。しかし、友達がいるから、面白そうだから、などの理由で希望している者も多々おり、途中で辞めそうな者が多いと1年生の中から報告があった。そこで、オーディションを行うことにし、オーディションにクリアしたいという思いを持つ者を篩にかけることにした。

オーディションは、現時点の上手い下手、覚えが早い遅いではなく、努力のできる人を募るために行うと説明をし、振り付けから1週間後に行うことにした。この時点での1年生の希望者は47名で、オーディションがあるならやりたくないという20名は、自ら辞退をした。又、47名中2名はマネージャーとして関わりたいと申し出があり、3名は学園祭実行委員チームのメンバーとしてコンテストに参加することになった。従って、50名前後という参加人数に関しては、(実際にはオーディションを行う前に)オーディション効果によって達成されたことになる。オーディションは2年生と筆者が審査をし、その結果、体力や技術、練習態度に心配のある者数名に努力を求めた。つまり、実際にはオーディションで落第した者は皆無である。しかし、練習に時間をかけるがあまりに、課題や試験勉強が疎かになることは困ると話をしたところ、1名が、課題に精一杯で試験勉強や練習との両立に自信がないと辞退を申し出た。従ってオーディション後は、2年生7名、1年生41名とマネージャー2名の計50名でチームを結成することになった。

その後、親戚の結婚式(1名)、交通事

故による怪我(1名)、練習中の怪我(1名)による辞退があった。そして、練習に参加しない学生(2名)、意欲を失った学生(4名)は辞めさせた。又、練習についていけない学生(1名)が、マネージャーとして関わりたいとの申し出があり、最終的には、2年生7名、1年生31名、マネージャー3名の41名が出場した。

3. 練習方法と日程

練習日時は、通常授業期間は週2回5限目に設定した。掛川を筆頭に、浜北、安城など遠方から通う学生も多く参加していたため、夏季休業中は、追再試発表やガイダンスなどで登校する日を中心に練習日を設定した。

練習方法

ダンスは筆者が振り付けをし、群として揃えにくい動き、繋がりが難しい動きに関しては、2年生を中心に、自分達が踊りやすいように工夫をさせた。

振り付けが終わった段階で、体力、筋力、瞬発力、柔軟性に欠ける学生が多かったため、毎回30分のストレッチと筋力トレーニングを課した。残り約60分は、動きを揃えることと、当日のワンクール分(6~8曲)を通して踊ることに重点をおいた。動きを揃えることに関しては、人数が多すぎて鏡のある部屋(リズム室・多目的室)での練習ができなかったため、様々なパターンでグループ分けをし、お互いにチェックをさせた。これも当初は2年生を中心にし、動きの揃え方を1年生に周知させるようにした。

9月以降は、動きを揃えることに加え、

表情を意識するよう指導をした。又、身体への意識、イメージ、エネルギーといった、内面的、抽象的な面にも触れ、動くことと踊ることの違いを指導した。表情に関しては、多くの場面で指導を受けていることなので理解できたようだが、イメージ等に関しては、理解できた者或いは感じることでできた者は多くなかったと思われる。その理由は、何度も踊るうちに自己流の踊り方に変化していったり、次回の練習時には、意識していたポイントを忘れて、指摘されないとできないことが多かったからである。

練習日程

- 6月19日（木）5限 VTR鑑賞後メンバー募集
- 7月 1日（火）5限 2年生への振り付け（前半部分）
- 3日（木）5限 1年生への振り付け（2年生が補助）
- 8日（火）5限
- 10日（木）5限 オーディション
- 14日（月）5限 2年生への振り付け（後半部分）
- 15日（火）5限 1年生への振り付け（2年生が補助）
- 17日（木）5限
- 22日（火）5限
- 25日（金）3：30～5：00
- 8月 4日（月）1：00～3：00
- 5日（火）1：00～3：00
- 6日（水）1：00～3：00
- 22日（金）1：00～3：00
- 25日（月）1：00～3：00
- 26日（火）1：00～3：00
- 9月 9日（火）1：00～3：00

- 17日（水）1：00～3：00
- 24日（水）5限
- 26日（金）5限
- 30日（火）5限
- 10月 3日（金）5限
- 7日（火）5限
- 10日（金）5限
- 14日（火）5限
- 15日（水）わいわく交流会後～5：00
（幼児教育・保育科1・2年生、教員に披露）
- 17日（金）5限
- 18日（土）2：00～4：00
- 19日（日）1：30 大学集合（衣装・化粧・練習）
5：30 会場集合
6：00～8：00コンテスト

4. コンテストを終えて

今回は、大賞を狙いたいという2年生が中心になっており、筆者も賞を獲得するための練習、意識付けを心掛けた。その結果、ダンスの楽しい、華やかな面しか思い描かず、厳しい要求に耐えられなかった学生達は、昨年度と違いリタイヤしていった。このことについての教育的配慮に関しては、賛否両論あると思う。しかし今回は、賞を獲得したいという目標の元に結成されたチームだったので、賞を獲得するための厳しさを指導することを優先した。実際、最後までがんばった学生達も、練習は厳しかった、辛いと思う時があったと後述している。運動部並みの練習量と厳しさに、戸惑いもあったようだ。しかし、日に日に動きが揃うようになり、群としての一体感が増すようになると、マスとしての楽しさ、群

舞の楽しさを実感したようである。そして、先輩・後輩・他クラスのメンバーに対しての親近感も増し、良い仲間に出会えてよかったという声も多く聞かれるようになった。厳しい練習を共にやり遂げたという、仲間意識の表れであると思う。これは、普段の学生生活の中では得られない仲間だと感じている。

今回は、2連覇中の前年度大賞受賞チームに2点差という僅差で、大賞を受賞することができた。参加した学生達は、目標に向けての目標に見合った努力の重要性、そしてメンバーが同じ気持ちで取り組むこと

の一体感、努力が報われた時の達成感・充実感・満足感等、多くのことを経験できたのではないかと考えている。

5. 学生へのアンケート結果

コンテスト、学園祭での披露終了後、学生達に、コンテストに参加したことによって感じていることを質問をした（無記名、強く感じる5、感じる4、どちらでもない3、あまり感じない2、全く感じない1とする5段階評価）。以下の結果を、ご参照頂きたい。

1	体力がついた	3.71
2	筋力がついた	3.23
3	姿勢がよくなった	2.97
4	動きがきれいになった	3.2
5	踊りを覚えるのが早くなった	3.8
6	リズム感がよくなった	3.63
7	表情がよくなった	3.81
8	身体の細かな部分まで意識できるようになった	3.93
9	他の人と動きをそろえることができるようになった	3.97
10	踊ることが楽しくなった	4.55
11	友達が増えた	4.52
12	先輩や後輩と友達になった	4.29
13	仲間意識が強くなった	4.39
14	大学（幼児教育科）への帰属意識が強くなった	3.97
15	人の意見を聞くようになった	4.1
16	人に意見を言えるようになった	3.55
17	気配りができるようになった	3.68
18	忍耐力がついた	4.13
19	集団行動がとれるようになった	4.06
20	時間を大切にするようになった	3.77
21	先生と話をするようになった	3.9
22	先生と仲良くなった	3.94
23	家族との話題になった	3.71
24	家族の協力があつた	3.29
25	練習は体力的に厳しかった	3.32
26	練習は精神的に厳しかった	2.65
27	準備が大変だった（衣装・自主練習）	3.71
28	授業や課題に支障があつた	2.45
29	参加してよかった	4.77
30	学祭で披露できてよかった	4.13

(文責 岡本)

6. 総 括

豊橋まつりに行われる「とんとん踊りコンテスト」は、平成15年には、7回目を数えるものである。このコンテストは、ダンスを媒体とした市民交流の場として捉えることが出来、「市民総おどり」に参加するグループとは違った層、特に若い世代が積極的に豊橋まつりに参加する機会となっているように思われる。『新とよはしとんとん唄』にあわせて多数の出場チームが華やかなダンスを披露するこのコンテストは、豊橋市のメイン・ストリートである広小路通りにおいて、祭り当日の夜を盛り上げる行事として定着している。

さて、このようなコンテストへの本学幼児教育・保育科学生の参加が、二年連続で行われた。俯瞰的に見ると、本学所在の地方自治体主催行事へ学生が積極的に参加する事は、地域に根ざす短大としてその存在をアピールするものと言える。また同時に、学生の本学所在市への帰属意識を確認させる好機ともなっている。

しかし、この所見は、そういった広義で学生の姿を捉えようとするものではない。2004年10月に実施された第49回豊橋まつり「第7回とんとん踊りコンテスト」出場という経験を通して、学生がどのような変化を見せたか、また、必ずしもプラス面だけとは言い難い状況が提示された事を、教員の立場から概括するものである。ここに、前期試験直前の7月10日に実施されたオーディションから始まり、コンクール前日である10月18日の練習に渡る三ヶ月余りの過程を通して感じたことを纏めてみたい。

学生にとってのプラス面として、第一に、目的達成のために真面目に地道に努力する事の大切さを学んだ点が挙げられる。現代の学生気質では、公衆の面前に自らの努力する姿を晒す事は、スマートでないとされる。しかし、努力無くして成果が得られないのは世の常であろう。自己のプライドと、努力の度合いの均衡を守るために、学生の多くは姑息な手立てで自分達を誤魔化すことに長けてくる。つまり、努力を厭うが故に、目的のレベルを下げる姿勢が非常に多く見られているのである。今回、コンテストに参加した学生は、「大賞を獲りたい」という共通の目的を達成するために、努力を積み重ねてきた。それは、自主練習という形に集約される。多人数が参加するという事も幸いし、真剣に努力しているという態勢を周囲の学生に隠さなかった。将来、幼児教育に携わる者としては、努力を続ける事の尊さや価値と、その努力が必ずや実を結ぶという非常に望ましい在り方を体得したと言える。第二に言えるのは、体力的な充実であろう。毎回、ストレッチ、筋力トレーニングに始まり、『新とよはしとんとん唄』6曲乃至8曲分（30分～40分）を踊る練習が課されていった。普段の運動量からすれば圧倒的に多い内容をこなす事により、運動に対する持久力や集中力が高まり、この点においても、将来希望する職業に適した資質を伸ばせたと言える。第三に挙げたいのは、「他人と動きを合わせる」ことで生まれる仲間意識の共有である。これは、学年やクラスの分け隔てなく出場者同士で接することが出来るようになった点から明らかである。交友関係の広がりや、授業が行われる教室だけでなく、学生食堂や購買部といった様々な場面

で確認された。人間関係を豊かにする事で、さらに学生生活を充実させ得たと考えられる。

次にマイナス面である。まず、コンテストまでの間に、リタイアを余儀なくされた学生達へのケアの問題がある。共通の目的に向けての努力を継続出来なかった自分に対して自信を失った者も居た。また、自分自身の未熟さや弱さにも拘らず、指導に当たった教員への苦手意識を抱いてしまった者も出た。自らを脱落者として見てしまう事は、向後のある学生の心の傷と成りかねない。こういった学生をフォローする役割を担う教員が必要だと言える。次に指摘したい点は、学生の肉体的な疲労感に起因する授業への集中度低下である。コンテストを間近にした時期は、学校行事と重なり、さらに秋学期の講義も本格化して多くの課題が出される時期である。講義を受ける学生としてやらなくてはならない事柄の多さと練習から来る疲労に苛まれ、多くの参加者において日頃の澁刺とした様子が見られなくなった。当然、受講態度にもそれは反映されてしまっていた。授業の場に加わってはいても、その場が眠気との闘いの場となっている学生が目についた。自己の体調維持と講義への積極的な参加は、両立させるのが困難であろう。最後に、二年生の参加についてである。この時期は、卒業年度にあたる二年生にとっては、本来就職活動をメインに考えるべき時機である。しかし、今回の参加者は、就職活動よりもコンテストを重視していた感が否めない。セミナー指導教員がどれほどやきもきしていても、本人達にとっては、「今」が大事であり、コンテストで大賞を獲るという事が優先されたのであった。学生の本分や、自己

の将来を大切に考える姿勢という点も必要なのではないかと強く感じさせられた。

プラス面、マイナス面夫々あるが、今回コンテストに参加した学生は、大賞獲得という成果を得て、学生生活の素晴らしい思い出を手に入れた。これが、彼ら彼女らにとって、何物にも代え難い経験となったのだと総括したい。

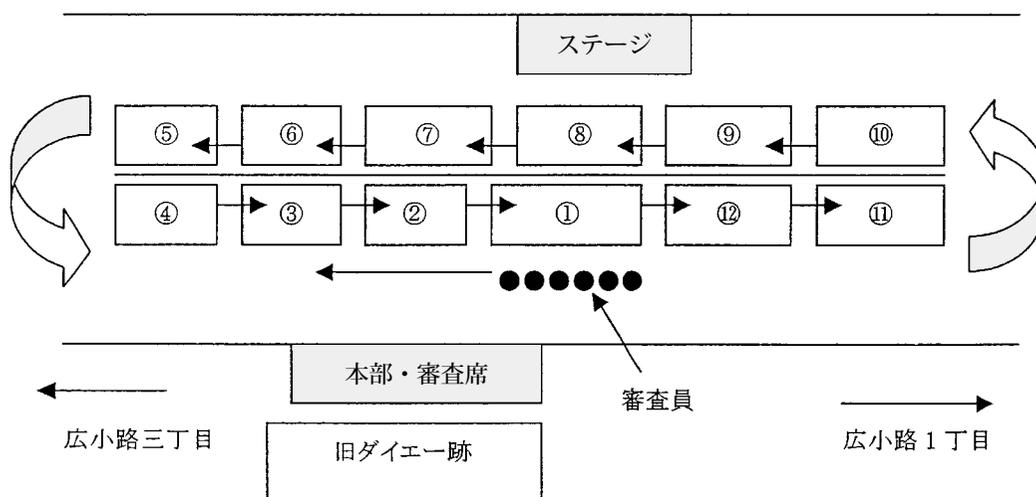
(総括文責 青嶋)

1 コンテストの実施方法について

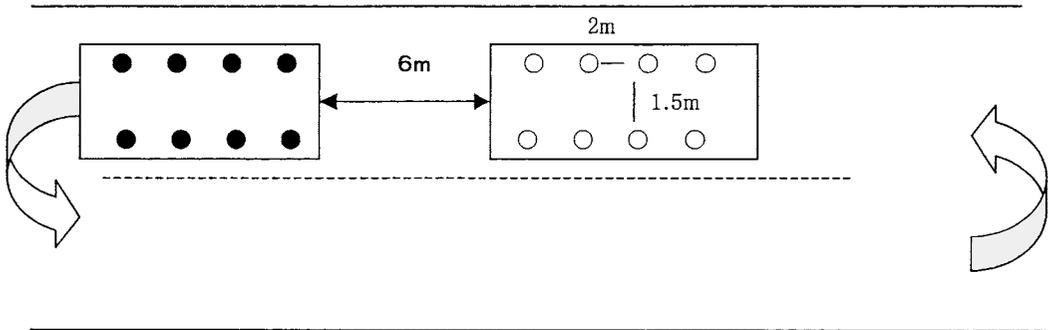
- 日時 10月19日（日）午後6時～午後8時30分
- 会場 広小路通り
- 曲目 新・豊橋とんとん唄
- 集合 午後5時30分 広小路通り
- タイムスケジュール

時 間		スケジュール
5:30		集合
5:40		クィーンダンス披露
5:50		大賞旗返還式（本部前ステージ）
5:59		カウントダウン
6:00		コンテスト開始
6:00—6:30	(30分)	とんとん 6曲
6:30—6:40	(10分)	休憩
6:40—7:10	(30分)	とんとん 6曲
7:10—7:20	(10分)	休憩
7:20—8:00	(40分)	とんとん 8曲
8:00		コンテスト終了
8:00—8:30		審査結果発表, 表彰
8:30		終了

- 進行方法等 一定の場所で止まって演技（1曲）. その後、横へ移動（30秒）し、その場で止まって踊る. **移動曲**《世界に一つだけの花（スマップ）》



○隊列



2 審査について

○審査方法

- 踊り, 衣装, ハッスルの3つのポイントで審査
- 6人の審査員の採点による合計点数により決定。ただし, 新人賞は今年初めて出場するグループから決定。また, 特別賞と個人賞は審査員の推薦により決定。
*“踊り” “衣装” “ハッスル” の3ポイントについて採点し, 各ポイントの最高点と最低点を外した点数の合計とする。
- 審査員が移動しながら審査します。
- 審査時間については係員がお知らせします。

○賞の内容

とんとん大賞	1本	賞金20万円, 大賞旗, 副賞, 賞状
優秀賞	2本	賞金10万円, 副賞, 賞状
部門賞	おどり賞	1本 賞金5万円, 副賞, 賞状
	コスチューム賞	1本 賞金5万円, 副賞, 賞状
	ハッスル賞	1本 賞金5万円, 副賞, 賞状
奨励賞	1本	賞金2万円, 副賞, 賞状
新人賞	1本	賞金2万円, 副賞, 賞状
特別賞	1本	副賞, 賞状
個人賞	10本	メダル
参加賞	全チーム	賞品 (表彰式終了後本部にてお渡しします)

*W受賞なし

とんとん踊りコンテスト配列（審査順）一覧表

エントリー No.	チーム名	人数	審査の順番
1	どやぎ〜な	10	1 曲目
2	ハートスピリッツ	9	
3	情報処理研究倶楽部	35	
4	豊橋演劇塾	17	2 曲目
5	満開！プロペラ天国	11	
6	ティプトップのゆかいな仲間たち	40	
7	塩満保育園	30	3 曲目
8	第八回創造祭実行委員会	30	
9	フラップ・ウィングズ	21	4 曲目
10	化友連	30	
11	爆烈爛漫娘	10	5 曲目
12	リトル・マーメイド	28	
13	幸小PTA	40	6 曲目
14	も〜ぶす☆	15	
15	豊川華	19	7 曲目
16	うさぎのダンスチーム	9	
17	T・C Sprout	40	
18	THE ミー&ター	30	8 曲目
19	We are 創造幼教です.	39	
20	豊橋市青年団協議会	10	9 曲目
21	よいとこ	22	
22	豊川市民病院 華音	35	10 曲目
23	ウィッチーズ2	30	
24	プチプチガールズ	10	11 曲目
25	竹輪	12	
26	3年T組	8	
27	THE ☆HBF	16	12 曲目
28	あつ よいしょ組	30	

* 審査の順番は、あくまでも目安です。当日の進行状況により変更する場合がありますのでご了承ください。

* 当日は、審査対象となるチームの進行責任者に、スタッフから「次の曲で審査します」とお知らせします。

